



新年のご挨拶

理事長 小柴 孝夫



新年明けましておめでとうございます。謹んでご祝賀申し上げます。

小職が神戸医師協同組合の事業運営を引き継がせていただいてより早や1年半が経過いたしました。この間、世界を取り巻く環境は、社会・政治・経済・金融・気象の変動など、あらゆる分野が危機的な状況に陥ったまま、即効薬もなく推移しているのが現状ではないでしょうか。

2008年9月、アメリカ発のリーマン・ショックが引き金となり、100年に一度と言われる世界同時金融危機が実体経済の悪化を来しました。これに対してG7は中国を中心にBRICSの連携協力を求め、巨額の公的資金を投入しました。その結果、ようやく先進諸国のGDPも上向きにさしかかった矢先、年末に起ったドバイ・ショックで再び全世界に衝撃が走るなど、世界経済の先行きは予断を許さない情勢となりました。

アメリカの失業率は依然10%を超えており、日本の失業者数も前年比増加し、販売価格の値下げ競争（消費者物価の下降）は企業の利益を圧迫し、被雇用者の賃下げや解雇の拡大につながり、デフレの悪循環に陥りつつあります。ドルの信認低下による円高は株価（日経）の大幅下落に繋がり、輸出企業の業績は厳しく、さりとて現政権は持続可能な内需拡大の具体策も出し切れずにいます。

医療・介護崩壊に対する処方箋は2200億円の削減の廃止、レセプトオンライン義務化の事実上の取り止めなど、政権交代によって一部明るさが見えて来たものの、本年4月の診療報酬の引上げについては連合への配慮からか、微妙な段階にきています。

この先、何が起こるか予測しかねる不況下、社会保障費の国民負担増、医療・介護施設の収入逡減に向かう怖れが強く懸念されています。

それにも拘らず、組合員諸先生方をはじめ、三師会の会員の先生方には格段のご理解、ご協力を賜り、神戸医師協同組合の平成21年度上半期の売上げは拡大に

向かい、総合的に利益も増加することが出来ましたことに対し、深甚の謝意を表する次第です。

小職の就任時、「神戸医師協同組合 事業運営の基本方針」として8項目を挙げさせていただき、徐々にではありますが実践に移してまいりました。

即ち、「③組合員先生方との更なる緊密な連携、信頼関係の強化、経営支援のため何をなすべきかを追求、実践する」、「④医師会の今後の事業運営にお役に立てることがあれば協力し、医師会との連携強化に努める」に関しましては「事業活性化委員会」を設置し、「ホームページ」及び「組合員ご加入のお勧め（事業案内）」のリニューアルを果たし、一口組合員を募っているところであります。同時にIT化を考慮し、今後の販売戦略（ネット販売の有効性、配送等）を検討中であります。また、営業マンの質の向上（教育）に資するべく、専門家による「ビジネスマナーの研修」特に接遇に重点をおいた講演会を開催いたしました。

その他、「⑥時代の要請でもあるエコ対策に協力、低炭素社会に参加、経費削減を徹底する」につきましては、エコ対策委員会、経費削減委員会を月一回、各部長以下職員一同とともに協議実践に移しているところであります。

また、特筆すべきは、平成21年5月16日、国内初の新型インフルエンザが神戸で発生する以前の1月に、神戸市医師会のインフルエンザ対策会議より発注要請のありましたPPEの供給につきましても、購入原価並みに提供させていただき、更には県下郡市医師会にも同様ご案内をいたしました。お蔭様で色々感謝のお言葉もいただき、役職員一同、モチベーションを昂める結果となりました。

今年は当組合の各部門間の相互の連携を深め、強い絆のもと、役職員一丸となって時代の激変に対処して参りたいと考えております。

この機会に多くの未加入の先生方にも組合員としてご参加いただき、更なるご利用を賜りますよう、切にお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。